

すず若者意見交換会(第4回)報告

資料-3

令和7年2月1日
すず里山里海移住フロント
(珠洲市企画財政課)

●すず若者意見交換会とは？

それぞれが今考えていることや想いを共有し、自分たちはどう生きるか、これからの珠洲をどうしていくかを一緒に考えようという会です。本会での意見は市役所関係課室にも共有するとともに、ホームページ等で公開します。

●第4回開催

1月にオンライン(2回)及び珠洲で開催し、27名が参加しました。今回のテーマは「なりわい」です。これまで営まれてきた「なりわい」の持続的発展とともに、未来に向けた新たな「なりわい」の創出を促進すべく、根本的部分である「珠洲のいいところ」や「自分が得意なこと」「珠洲がこうなったらいいな」「これからやりたいこと」などを話し合いました。

また各回にゲストをお招きして、「なりわい」に関してご講演いただきました。

写真

会場の様子(左:珠洲、右:オンライン)

開催レポート(HP:すつとずつと)



<https://sutto-zutto.com/>

●ゲストトーク内容

1月15日 オンライン会場

ゲスト

荒川 健生氏(氷見市ビジネスサポートセンター センター長)

「氷見市での伴走型事業者支援(Himi-Biz)の取り組みの紹介」

「氷見市ビジネスサポートセンター」とは。

氷見まちづくり協議会(商工会議所、金融協会、商店街連盟、自治振興委員連合会)を母体とし、2020年6月に氷見ビジネスサポートセンターを設立。高齢化や後継者不足に伴い、既存事業者をどう生かすかに焦点を当て設立。売上アップの頼れるミカタとして既存事業者への伴走支援や創業・継業支援を行う。

1月19日 オンライン会場

ゲスト

加賀 裕氏(興能信用金庫能登復興支援部 副部長)

「珠洲をはじめ奥能登の「なりわい」(地域経済)の現状について」

能登復興支援部を設立

本店6名、七尾支店2名体制で設置。事業者の復旧復興支援を行う。

○補助金申請支援・・・なりわい再建補助金や小規模持続化補助金などの申請業務を支援。

○副業人材活用・・・事業者の課題を把握し副業人材をマッチング。課題解決や外部との関係づくりを支援。

1月25日 珠洲会場

ゲスト

袖 良暢氏(珠洲市商工会議所 事務局長)

「珠洲市内の事業者の現状について」

市内の事業者の現状として、業種ごとの再開率や課題などを説明。また人口減少に伴う影響についての見解をご紹介いただくとともに、「RESAS」による経済分析データの読み合わせを行った。説明の中では、岩手県や宮城県の商工会議所から聞いた東日本大震災での事例やアドバイスを交え、参加者に伝えた。

>>> 裏面に続く

●第4回で出た意見（まとめ）

以下の通り、本会にて出た意見を復興計画（案）の基本方針及び施策ごとに分類しながらご報告します。
詳細は別紙資料「すず若者意見交換会 意見一覧表」をご覧ください。

基本方針2 暮らしとコミュニティの再建

- 新築住宅の坪単価上昇については噂も多い。何が本当なのか明らかにしたい。今度、ハウスメーカーに周辺住民へ説明する機会をつくってもらう。
- 大谷町では家財の再利用を進めている。支援に来た長野県の人が長野で蚤の市を開催し販売している。
- 先人がつくってきた祭りを復活、維持していきたい。祭りがなくなったら今の小中学生も戻ってこなくなる。祭りを通して地域のつながりを持続していくことが、大きな繋がりになる。

基本方針3 生産性の向上を図るなりわいの再建

- 今までのなりわいのフォローと新しい種をつぶさないこと。
- 支援者や首都圏のバイヤーと繋がること。販路を拡大し、外貨を稼ぐことでプラスを生み出す。
- 副業人材を通じた問題解決や外部との関係づくりを支援（石川県の制度、興能信用金庫の事業）
- 色んな制度がある。企業はその制度を調べて申請する、市役所や商工会議所は情報をきちんと発信することに双方努力していけると良い。
- 東日本大震災の時は、事業者の再建のため遊休資産のマッチングが行われ、全国から集めたものを活用した。

<なりわい再建補助金>

- * 従業員が後継者となり、なりわい再建補助金を申請したが、経営者がすでに廃業届を出しており利用できなかったケースがある。（東日本大震災の例）
- * 経営者がなりわい再建補助金を活用して建物等を修繕した後、病気となり、第三者へ事業を譲って継続させた。補助金返還義務は無しだった。（東日本大震災の例）
- * なりわい再建補助金を利用したが経営者である夫が亡くなり、妻が廃業したとき、妻に返還義務が生じた。（東日本大震災の例）
- 市外事業者への水道工事依頼について県が移動費や宿泊費などを助成してくれるが、地場業者で請け負い市外業者に委託するルートでは助成されない。なるべく地場業者に施工してもらいたいが、人手不足で作業が進まない。
- 資金調達の方法が多様化した。社会的価値のある事業には支援してくれる人がいる。
- 市内の農作物や魚の価値を上げるには、宿や飲食店で提供するのがよい。
- 食べ物に老若問わず楽しめる。珠洲にある美味しいものを若い人たちに教える気居あがあるとよい。
- ヨバレの文化を今の時代に合わせてアップデートする。
- 三重県多気町のような「美食の町」が出来たら遠方からも人が来て盛り上がるのでは。
- 若い人に宿や旅館などを託していく。新しく建てるより継承した方が保健所の許可を取りやすい。
- 新しくチャレンジする人を後押しする役周り（組織など）があるといい。
- 珠洲に戻り農家をやりたい。地産地消で直売できる方法を考えている。
（別の参加者から農業機械が余っているので貸す。一緒にやろうという声も）
- 東京の新宿区に「れもんハウス」という場所がある。古い一軒家のキッチンでみんなでご飯をつくって食べる。泊まれるスペースもある。しんどい人だけではなく、ビジネスマンも経営者も本当にいろんな人がフラットにしているので面白い。
- 人を呼びつける、訪れる魅力のある産物を磨き上げていくことをしていかないといけない。高くても、訪れてまで欲しいと思うものをつくりたい。
- 物語があるとよい。塩づくりで炭が海水の濾過に使われ、にがり豆腐づくりに使われているような、そういうストーリーを繋げて相乗効果を生み出すような事業の磨きあげ方をしたい。
- 里山里海の営みが循環していることや、なりわいをやっている人の夢が分かるものをつくりたい。ウィンメルブック（文字のない絵本）のような。

基本方針4 これまでの取組みを活かした魅力ある地域の再生

- その場で採って食べられるのが珠洲のいいところ。こんなノウハウを若い人に伝えたい。
- 「仕事があるから住む」という時代から「暮らしそのものが魅力的だから住む」という価値観へのシフト。
- 珠洲で暮らしたい、仕事は自分で何とかできるという人へのアプローチが必要。そういう人たちを自由にさせてあげる。「外から来た人やからよう分からん」とかではなく外の人も中の人も一緒になって頑張るムードができるとうい。

●今後の予定

2月下旬頃から「住まい」に関するテーマについてのゲストトーク&意見交換会を開催予定です。

●お問い合わせはこちら

すず里山里海移住フロント（事務局：珠洲市企画財政課）

電話：0768-82-7726 メール：iju@city.suzu.lg.jp

公式LINE：@392wolaq（右記二次元コード）



すす若者意見交換会 開催記録

●第1回開催

テーマ 「自分や家族がどう過ごしたいか（これから半年）」
「これからの珠洲市のために何に取り組むか（もし自分が市長なら）」

日程	会場	参加人数	
6月30日	野々市市（いしかわ大学連携インキュベータ）	15名	
7月6日	珠洲市（市役所4階会議室）	16名	
7月10日	オンライン（ZOOM）	20名	計51名

●第2回開催 ※NPO法人ガクソー共催

テーマ 「子ども・教育」

日程	会場	参加人数	
8月31日	珠洲市（台風のためオンラインに切替）	12名	
9月1日	金沢開催（参加人数が少ないため中止）	中止	
9月3日	オンライン（ZOOM）	14名	計26名

●第3回開催

テーマ 「住まい」

日程	会場	参加人数	
11月10日	珠洲市	10名	
11月13日	オンライン	7名	
11月16日	金沢市	7名	計24名

●第4回開催

テーマ 「なりわい」

日程	会場	参加人数	
1月15日	オンライン	12名	
1月19日	オンライン	10名	
1月25日	珠洲市	5名	計27名

合計128名

✓ 今後も継続的に対話の場を設ける予定です。ご関心のある方はご連絡下さい。

✓ 開催レポートをホームページに掲載中です！（右記二次元コード）

珠洲発・暮らしのウェブマガジン「すつとずっと」

